健康栄養学科

准教授　長屋　郁子

専門分野

栄養教育
食育

学位・資格

修士（生活科学）
管理栄養士

研究者情報
(Research Map)

専門分野と社会との関わり

食を通じた子育て支援や生活習慣病予防など、生涯にわたる栄養教育・食育の研究を行っています。主に岐阜県内の地域と関わりながら「地域特有の食文化継承」、「自然に健康になれる持続可能な食環境の整備」、「効果的な栄養教育方法の検討」を中心に、地域の多様な場に応じた栄養教育・食育の推進を目指しています。

■ 地域特有の食文化継承
所属学会の研究チームの一員として、岐阜県の家庭料理を継続的に聞き書き調査し、その成果を学会発表や、書籍・季刊誌にまとめています。また、調査内容を基に地域特有の行事食・伝統食を子どもたちへ伝え継ぐ活動を、地域と連携しながらすすめています。

■「自然に健康になれる持続可能な食環境整備」の取り組み
地域住民がより健康的な食生活を送るには、地域全体の食環境づくりが大切です。そこで、岐阜市保健衛生部健康づくり課や地域企業との産官学連携で、ナッジ（人々の行動をそっと促す手法）を用いた具体的な食環境整備に取り組んでいます。

■ 効果的な栄養教育方法の検討
第4次食育推進基本計画の重点項目の１つである「新たな日常やデジタル化に対応した食育の推進」として、災害等に備えた日常の食生活の大切さを伝える効果的な栄養教育方法を検討し、発信しています。

最近の活動紹介

教育活動／研究活動

地域の子どもたちへの食文化継承

2024年度の地域実践演習(卒業研究)では、岐阜県揖斐郡池田町「こども食堂みやじ」にて食育活動に取り組みました。地元食材のいび茶やブルーベリーを使ったおやつメニューの提案や、郡上市や下呂市などの家庭料理「鶏ちゃん」をアレンジした「鶏ちゃん丼」のランチ提供などを通して、岐阜の食文化を紹介しました。また、自然と子どもたちに食に興味・関心をもってもらえるよう、自由参加型の食育クイズや調理コーナーの工夫を試みました。地域のこども食堂は、幼児、小学生、ボランティア活動に来ている中学生、保護者、高齢者と様々な世代が集い交流できるからこそ、地域の食文化継承の場になりうると感じています。
このような活動を通して学生とともに地域とつながることで、毎回新しい発見や様々な出会いがあり、その貴重な時間を大切にしています。

↑ブルーベリーパフェ
体験コーナーの様子

地域貢献活動

地域のパティスリーとのコラボ商品開発「養老サイダープリン」

2022年度岐阜県養老町「養老町特産ブランド」の新商品開発事業に学生15名が参加しました。養老町が養老公園を拠点として観光消費拡大に向けた実証実験に取り組むYOROラボプロジェクト(事業受託：OKB大垣共立銀行)の一環であり、「食と絶景」を切り口に若者を中心とした集客力の向上を目指した新商品を考案しました。
養老町の「パティスリー暦」とタッグを組み、何度も意見交換・試作を重ね、商品のおいしさはもちろん、パッケージデザイン、販売促進のアイデアなど、個々の意見やスキルを積極的に出し合い「養老サイダープリン」を完成させました。その後店頭販売が実現し、2023年8月には養老町特産ブランドの認証を受けました。学生達の想いが詰まったコラボ商品は、現在養老サービスエリア(上り)や養老駅観光インフォメーションなどでも販売拡大中。マスコミにも紹介される人気商品となっています。

↑ワークショップの様子（@ヨロフィス）

↑養老町特産ブランド認証第32号
「養老サイダープリン」